

第3学年 国語科学習指導案

令和3年11月5日（金）

- 1 単元名・教材名 「未来へ！15歳の主張 ～人の生き方や社会について考える～」
『故郷』（光村図書）

2 生徒の実態と本単元の意図

学ぶこと	文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人の生き方や社会について、自分の意見をもつこと。
学び方	主人公以外の視点から物語を書き換えることを通して、様々な見方や考え方をもち、自分自身の知識や体験と結び付けながら、人の生き方や社会について考えさせる。
できるようになること	文章の内容と自分自身の知識や体験とを結び付けながら、人の生き方や社会について、自分の意見を形成すること。

1学期に実施した文学的文章の『握手』の授業では、「ルロイ修道士への弔辞を書こう」という言語活動を設定し、文章を批判的に読むことや文章に表れているものの見方・考え方について学習をした。「子供のために、泥だらけになって野菜を作り鶏を育てている。」という叙述から「優しい」と表現したり、「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。」という叙述から「子供想いで厳しい人」と表現したりするなど、多くの生徒が、叙述を根拠に人物の人柄を捉えることができた。しかしながら、それらを結び付け、複数の根拠から登場人物の生き方や考え方にまで迫る生徒は少なかった。このことから、一つの叙述を根拠に人物像を読み取るだけでなく、複数の場面や叙述を結び付けながら、登場人物の生き方、考え方を捉え、自分の考えを広げたり深めたりする力を育む学習指導が必要だと考える。

本教材『故郷』は、主人公が少年期を過ごした場所に時を隔てて訪れ、変わり果ててしまった人々との再会を通して、心を激しく揺れ動かす様子を描いた作品である。登場人物たちの悲しみ、苦しみ、おごり、遠慮、利害などがその言動によって描かれている。また、生徒たちよりも遙かに年齢の高い甥っ子のいるような大人が、輝かしい思い出を碎かれ失望する様子や、絶望ともいえる感情を抱きながら故郷を後にする様子、ホンルとシュイションの会話から少しの希望が生まれる様子などは、生徒にとって、現在と将来の自分自身を考える上で大きな材料になると考えられる。義務教育最終年の生徒たちは、否応なしに自分の将来を考え始めなければならない。そのような状況の中、自分たちの未来をより深く考えるために、『故郷』は格好の教材であると言える。

本単元では、「人の生き方や社会について自分の意見をもつことができる」ことを目標にし、主人公以外の登場人物の視点に立ち、作品をリライトするという言語活動を設定した。別の人物から『故郷』を捉え直すことによって、登場人物それぞれの故郷に対する思いを読み取らせ、さらにその読みから人の生き方、社会について考えさせたい。『故郷』には9人の人物が登場する。別の登場人物から作品をリライトするためには、9人の登場人物の設定や

関係性を理解することが重要である。そこで、第3時に『故郷』の人物相関図を作り、登場人物の関係性を視覚化する。視覚化することにより、生徒は自分が読み取ったことを客観的に理解することができる。また、作成した人物相関図と照らし合わせながら読み進めることによって、作品への理解を深めることができる。主人公以外の登場人物の視点で作品を読むことは、作品に描かれていない心の動きを具体的に想像させる活動につながる。登場人物たちの複雑な心の動きを、叙述に基づきながら想像させ、知識や経験と結び付けながら、未来を生きる自分自身についての考えを深める単元にしたい。

3 本校研究主題とのかかわり

「 生徒の学習改善、教師の指導改善につなげる教科指導の工夫

— 評価方法の工夫・改善を中心として —

今年度より全面実施となった中学校学習指導要領の着実な実施を目指していくため、本校では昨年度から、全教科における学習改善・授業改善を図っている。

本研究主題を受け、国語科の指導においては、①振り返りシートの活用②「読むこと」の力の可視化に重点的に取り組んでいる。

①については、単元ごとに振り返りシートを作成し、毎時間の授業終了前に取り組んでいる。振り返りの視点を四つ設け、四つの視点の中から、生徒自身が視点を選び、授業を振り返っている。

<振り返りの視点>

- ・今日の学習でできるようになったことや分かったこと、身についたこと。
- ・今日の学習で課題を解決するために試行錯誤した（工夫を重ねた）こと。
- ・前回までに学習したことで、今日の学習に役立ったことや生かしたこと。
- ・今日の学習で今後の学習や生活の中に生かせそうなこと。

振り返りシートにより、生徒は自身の学びを客観的に理解することができる。また、学習過程が可視化されることで、単元全体の学びを振り返ることも可能になり、単元中の学習改善はもちろん、次の単元の学習改善にもつながる。また、教師にとっては、授業で身に付けさせた力と生徒が身に付いたと感じている内容が一致しているかを確認することができる。例えば、「文章の形式」に注目させることをねらいとした授業の振り返りが、「文章の内容」についての記述ばかりであれば、形式に注目させるための手立てを再考する必要がある。このように、振り返りシートは教師の指導改善にも活用することができる。

②について、生徒一人一人の読みは頭の中にあり、目に見えるものではない。そのため、読みが生まれる過程や読みの変容を客観的に理解することは難しい。読みの過程や読みの変容が客観的に理解しにくいことは、生徒にとっては、「読むこと」の力が身に付いたと自覚しにくく、教師にとっては、「読むこと」の評価が難しいと考えられ、「読むこと」の学習が難しくなる一因と考えられる。そこで、「読むこと」の指導では、本単元の人物相関図や意見文のように、生徒一人一人の読みを可視化することを重視している。読みを可視化することにより、生徒は自身の読みの変容や読みの深まりを実感しやすくなり、教師は、生徒一人一人の「読むこと」の評価を適切に行うことができると考える。

4 単元の目標

- (1) 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 <知識及び技能>(1)イ
- (2) 文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方を捉えることができる。 <思考力、判断力、表現力等>C(1)ア
- (3) 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。 <思考力、判断力、表現力等>C(1)エ
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 <学びに向かう力、人間性等>

5 本單元における言語活動

主人公以外の視点から作品をリライトし、人の生き方や社会についての意見をもつ。
(関連：言語活動例イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ	①「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)	①粘り強く文章を読んで考えを広げたり深めたりして、学習課題に沿って、自分の考えを文章にまとめたり伝え合ったりしようとしている。

7 指導と評価の計画（全7時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	○指導上の留意点・評価 ☆学習改善に係る手だて ▽指導改善に係る手だて
1 ・ 2	○学習のねらいや進め方を理解し、学習の見通しをもつ。 ○「リライト」とは何かを理解する。 ○『故郷』を通読し、話の展開や内容の大体をつかむ。 ○初発の感想を書く。	○リライトについて ○初発の感想 ○作品の場面構成 ○作品のあらすじ ○文脈上の語句の意味	○生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示す。 ○場面と場面、場面と描写を結び付けて解釈をしやすいように、『故郷』全文を1枚にまとめたシートを配布する。 ○既習教材『握手』の一場面をリライトさせることで、活動の見通しをもたせる。 ○作品を読む際、「現在」と「回想」の場面の移り替わりに注意するよう指示する。 ▽初発の感想の内容を確認し、次時以降の

	<ul style="list-style-type: none"> ○初発の感想を交流する。 ○文章の構成を確認する。 		<p>指導に生かす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【知識・技能①】 <u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、タブレットや辞書を使って文中の語句の意味を確かめ、文章の中の使われ方を捉えているか確認する。 </div>
3 ※ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○人物相関図を書き、人物同士の関係を捉える。 ○人物相関図を見て、気がついたことや考えたことをまとめる。 ○人物相関図をグループで交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人物相関図の書き方 ○登場人物の相互関係 	<ul style="list-style-type: none"> ○「世代の違いは上下で表す」「友人関係は横につないで表す」などのルールを提示し、人物相関図に取り組みやすくする。 ☆人物相関図の作成により、自分の読みを視覚化する。 ○交流では、図のまとめ方だけでなく、人物相関図から気がついたことや考えたことも交流するよう指示し、作品への理解を深めさせる。 ○世代による関係性の違いに注目するよう促す。 ▽一人一人の人物相関図を確認し、生徒の作品への理解度を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>人物相関図（タブレット）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、作品全体の構造を捉え、世代の違いや「私」とルントウとの関係に注意しながら、人物相関図を作成しているかを確認する。 </div>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ルントウとヤンおばさんの変貌についてまとめる。 ○2人の人物の変貌から考えたことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人物描写 ○作品の時代背景 ○文脈上の語句の意味 ○比喻表現 	<ul style="list-style-type: none"> ○変貌の例を示し、学習の見通しをもたせる。 ○理解を深めるため、「纏足」や「重い税金」など、二人の変貌に関わる中国の政策について説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート、観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、人物の変貌を捉えるために必要な観点を考え、観点に沿ってルントウとヤンおばさんの変貌を捉えているかを確認する。 </div>
5	<ul style="list-style-type: none"> ○リライトする視点人物と場面を決め、構成メモを書く。 ○構成メモをグループで交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構成メモ ○交流の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ○視点人物の心情や、視点人物と他の人物との関わりを表現する上で適した場面を選ぶよう指示する。 ○同じ視点人物を選んだ生徒同士で交流させ、構想を膨らませる。 ○交流時には、他者の意見を積極的にメモするよう促す。

			<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ワークシート、観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでは、本文を繰り返し読んだり、積極的に交流したりして、リライト作品の内容をよりよくしようとしているかを確認する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ○主人公以外の視点から、作品をリライトする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リライトの仕方 ○視点人物の違いによる表現の変化 ○人物の心情の捉え方 	<ul style="list-style-type: none"> ○選んだ人物の視点を意識し、本文とは異なる表現にするよう促す。 ☆リライト作品に取り組むことで、自分の読みを客観的に理解させる。 ▽リライト作品の内容を確認し、一人一人の作品の捉え方を確認する。 <p>【思考・判断・表現①】 リライト作品（タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでは、物語の展開を捉え、物語の展開に沿ってリライトしているかを確認する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ○リライトした作品を交流する。 ○交流したことを踏まえて、人間や社会についての意見文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の観点 ○意見文の書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ○「表現の違い」や「心情や情景の書き方」に注目しながら、他者の作品を読むよう指示する。 ☆視点人物が異なる作品を読ませ、故郷への様々な考え方に触れさせる。 <p>【思考・判断・表現②】 意見文（タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでは、自他のリライト作品の内容を踏まえて、自分の意見をまとめているかを確認する。

8 本時の学習指導（本時 3 / 7 時）

(1) 目標

○文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方を捉えることができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉 C(1)ア

(2) 評価規準

○「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開の仕方を捉えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開（ ☆学習改善に係る手立て ▽指導改善に係る手立て ）

学習活動	学習内容	○指導上の留意点・評価	時間
1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○本時の学習目標の確認	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を明確に示し、意欲を高める。 ○人物相関図の例を提示し、活動の見通しをもたせる。 	2
<p>人物相関図を作り、気づいたことや考えたことをまとめよう。</p>			

<p>2 登場人物を確認する。</p> <p>3 人物相関図を作成する上でのルールを理解する。</p> <p>4 デジタル教科書を使い、人物相関図を作成する。人物相関図を作成しながら、気がついたことや考えたことをワークシートに書く。</p>	<p>○登場人物</p> <p>○人物相関図の書き方</p> <p>○登場人物の相互関係の読み取り方</p> <p>○考えの根拠となる描写</p> <p>・情景描写 ・行動描写</p> <p>・心情描写 ・会話文</p> <p>○登場人物の関係性を表す言葉</p>	<p>○全文プリントを使って、登場人物を確認するよう促す。</p> <p>○「世代の違いは上下で表す」「友人関係は横につないで表す」などのルールを提示し、人物相関図に取り組みやすくする。</p> <p>○大型モニターに教師タブレットの画面を表示しながら、デジタル教科書の操作方法を確認する。</p> <p>○関係性を表すための根拠となる叙述に、線を引かせる。</p> <p>☆人物相関図の作成により、自分の読みを視覚化する。</p> <p>▽一人一人の人物相関図を確認し、生徒の作品への理解度を確認する。</p>	<p>5</p> <p>5</p> <p>20</p>
<p><押さえない「私」とルントウの関係性を表す根拠></p> <p>P. 117・L7 「私は感激で胸がいっぱいになり」</p> <p>P. 117・L9 「ああルンちゃん—よく来たね……。」</p> <p>P. 116・L14 「最後にうやうやしい態度に変わって」</p> <p>P. 116・L15 「旦那様！……。」</p> <p>P. 117・L13 「めっそうな、御隠居様」</p>		<p>評価規準</p> <p>【思考・判断・表現①】</p> <p>人物相関図（タブレット）</p> <p>・ここでは、作品全体の構造を捉え、世代の違いや「私」とルントウとの関係に注意しながら、人物相関図を作成しているかを確認する。</p> <p><「努力を要する」状況(C)への手立て></p> <p>・①9人の登場人物を世代別に配置できない②「私」とルントウの関係性を表現できない生徒をCと判断する。①への手立ては、それぞれの人物は「私」から見て年齢が上か下かを問い、世代を考えるよう促す。②への手立ては、「私」とルントウとの関係を表す根拠となる描写を一つ提示し、その描写から関係性を考えるよう指導する。</p>	
<p><期待される生徒の気づき・考え></p> <p>・『故郷』に登場する人物は、大きく三つの世代に分けられる。</p> <p>・ホンルとシュイションは友達の関係だが、それより上の世代は主従関係になっている。</p> <p>・「私」とルントウは、子どもの時は友人関係であったが、大人になると、主従関係になってしまった。</p> <p>・子どもの世代と大人の世代で人物の関係が異なっている。</p>		<p>○図のまとめ方だけでなく、人物相関図から気がついたことや考えたことも交流するよう指示する。</p> <p>○世代による関係性の違いに注目するよう促す。</p>	
<p>5 グループで人物相関図を見せ合い、登場人物の関係性や人物相関図から気がついたこと、考えたことを交流する。</p>	<p>○交流の仕方</p> <p>○登場人物の相互関係</p> <p>○考えの根拠となる描写</p> <p>○人物相関図から気がついたことや考えたこと</p> <p>○自分の考えと友達の考えの共通点と相違点</p>	<p>○図のまとめ方だけでなく、人物相関図から気がついたことや考えたことも交流するよう指示する。</p> <p>○世代による関係性の違いに注目するよう促す。</p>	<p>10</p>

6 人物相関図から気がついたことや考えたことを発表する。	○人物相関図から気がついたことや考えたこと ○自分の考えと友達の考えの共通点と相違点	○自分やグループの考えと比較しながら発表を聞くよう促す。	5
7 学習の振り返りをする。	○学習の振り返り	○本時の目標を再確認させ、振り返りの視点に沿って、振り返りシートに記入させる。 ☆振り返りシートに記入させることで、本時の学習内容を客観的に理解させる。 ▽振り返りシートの記述内容を確認し、教師が身に付けさせたいことと生徒が身に付いたと感じていることに違いがないかを確認する。	3

8 備考

3年1組 男子16名 女子13名 計29名

<板書計画>

<p>単元名 未来へ！十五歳の主張 ～人の生き方や社会について考える～</p>	<p>単元のゴール 文章の内容と自分自身の知識や体験とを結び付けながら、人の生き方や社会について、自分の意見をもつこと。</p>	<p>今日の学習目標 人物相関図を作り、気づいたことや考えたことをまとめよう。</p>	<p>～『故郷』登場人物～ 私、ルントウ、私の父、私の母、ホンル シュイシヨン、ルントウの父、ヤンおばさん、五歳になる女の子</p>	<p>人物相関図 例① ※世代の違いを上下で表すこと、同世代や友人関係は横線でつなぐことを伝えるための図。</p> <p>人物相関図 例② ※人物同士の関係を簡潔に示すことを伝えるための図。</p>	<p>交流のポイント 揭示</p> <p>① 九人の人物をどのように配置したか。 ② 「私」と「ルントウ」の関係をどんな言葉で表し、その根拠は何なのか。 ③ 人物相関図から気づいたことや考えたことは何か。</p>
--	---	--	--	---	---